

令和 2 年 9 月 9 日現在

機関番号：64401

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2019

課題番号：15KK0069

研究課題名（和文）日本国内の民族学博物館資料を用いた知の共有と継承に関する文化人類学的研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Source Community Utilization of Ethnological Collections for Information Sharing in Japanese Museums (Fostering Joint International Research)

研究代表者

伊藤 敦規 (Ito, Atsunori)

国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・准教授

研究者番号：50610317

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,300,000円

渡航期間：7ヶ月

研究成果の概要（和文）：研究代表者の国立民族学博物館、米国の博物館（3館）の収蔵資料を、ソースコミュニティ（SC）の米国先住民ホピの人々と熟覧し、彼らの記憶や経験に基づく「もの語り」を記録・収集した。これは従来のミュージアムにおける文化的他者による資料分類や解説とは一線を画すSCの自文化の語りを尊重したアプローチであった。「もの語り」を記録した映像やテキストは、収蔵資料に関する重要な補足情報として各ミュージアムに受け入れられた。すなわち、将来の博物館活動の基礎となる収蔵資料情報の一部となった。それによりミュージアムにおけるSCのプレゼンスが格段に増し、博物館におけるフォーラム化が実際に加速された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

民族学博物館が収蔵する資料の多くは、研究者や学芸員といった文化的他者によって科学的に分類され解説されてきた。本課題では、ソースコミュニティの人びとに資料一点一点を資料情報と突き合わせて確認してもらうことで、多様な個から形成される地元の多層的な知識のあり方を、新たな資料情報として記録・収集することができた。

研究成果の概要（英文）：We begun the work of reconnecting the Hopi jewelry collection at Museum of Northern Arizona, Denver Museum of Nature & Science, and National Museum of the American Indian (Smithsonian Institute) and several other museums, with contemporary Hopi silversmiths. The accumulation of new information has resulted in a valuable and irreplaceable narrative documentation of people's memories and experiences that puts a spotlight on the diversity of the source community and the individuality of the objects. It is not necessary for a collection review transcript to just be a museum collection reference database. It could be a tool to document and understand a complex, diverse, and changing body of knowledge about the source community by incorporating their views of individual objects held in the museums. We focus on what is important to the community members. It is a robust record of their personal connections, to be handed down to their descendants.

研究分野：文化人類学

キーワード：博物館 先住民 民族誌資料 ソースコミュニティ 協働民族誌 デジタル映像アーカイブ デコレーション カルチャル・センシティビティへの配慮

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

本研究課題の申請時現在の既に採択済みの研究課題(若手研究A)は、民族学博物館にソースコミュニティ(資料を制作し使用してきた人々およびその子孫、以下SC)を招聘し、彼らと資料熟覧を行うことで資料情報の再収集を果たす博物館人類学の世界的展開であった。博物館とSCという、収集後の再会があまり想定されてこなかった二つの異なるコンテキストにおける、知(科学的情報・伝統的知識)の連動を目的とした。2014年と2015年に、米国先住民複数名を国立民族学博物館(以下、民博)に招聘し、民博が所蔵する約500点のホビ製民族誌資料の個体名、制作者名、収集年、収集地等からなる「基本情報」をSCの使用言語に翻訳して共有した上で、資料熟覧を行った。結果、「基本情報」の誤記等が明らかになっただけでなく、博物館が通常「詳細情報」と分類する項目に関しても、熟覧者の居住地域の文化的文脈に基づいたコメントが新たに膨大に収集された。熟覧の様子はデジタル収録し、音声は文字起こし済みで、発話者による内容のチェックを受けたものは日本語訳を済ませ、映像に字幕を入れる編集を行った。SC招聘時には資料熟覧に関する国際ワークショップも開催した。そこでの議論をふまえ、圧倒的な質と量の情報が得られる博物館とSCとの協働熟覧の方法論を精査し、調査法モデルとして構築することを目指した。

1990年代以降、日欧米の主要な民族学博物館は、展示する側・される側・観る側の三者が情報や意見を交換して議論する機能を重要視する傾向にある。また文化人類学も、ポストコロニアル批判や交通輸送手段と情報通信技術の発達を背景として、研究する側とされる側との間で意見や解釈の双方向性を担保するフォーラム化が推進されている(Peers and Brown 2003)。申請時現在の研究課題(若手研究A)は、課題名にあるように「日本国内の民族学博物館資料」を用いた研究であった。そこで主催した二度の国際ワークショップや、本研究課題の代表者である私が参加した国際学会などでは、上述したフォーラム化傾向の流れもあり、海外諸機関から国際共同研究の申し出を受けた。そのため本研究課題の代表者である私は、国際共同研究加速基金の機会を用いて、国内の博物館に招聘した経験をもとに構築中のSCとの協働熟覧の方法論モデルを世界に向けた展開を試みることにした。すなわち、現在採択中の研究課題によって蓄積した具体事例に基づきながらSCのプレゼンスを高め、民族学博物館におけるフォーラム化を日本から加速させる新たな研究の必要性を説き、その実施を目指した。

2. 研究の目的

民族学博物館の所蔵資料の多くは、収集時には所蔵(収集)機関とSCとが直接的または仲介者を通して間接的に出会うが、通常それ以後の再会は想定されてこなかった。この状況において、機関[A]北アリゾナ博物館のBreunig名誉館長やHays-Gilpin主任学芸員、機関[B]国立アメリカンインディアン博物館のChavez-Lamar副館長、機関[C]デンバー自然科学博物館のColwell博士は、博物館とSCとの関係再構築に努め、両者の「再会」に関して米国をリードしてきた。

これら人材、資料の所蔵状況、熟覧のためのスペースや設備を備える3機関と、国際共同研究を開始する。内容は[イ]3機関でのSCとの「再会」経験の共有、[ロ]資料再撮影を含めた所蔵資料情報確認調査、[ハ]SCとの協働熟覧、[ニ]デジタル収録の編集(文字起こし、発話者による内容精査、和訳、映像字幕編集)、[ホ]SCや所蔵機関への熟覧データ還元と自己評価、[ヘ]データの一般公開、[ト]博物館人類学における新たな資料ドキュメンテーション方法論モデルの確立である。

資料ドキュメンテーションの観点からは、3機関が実施した「再会」記録は完全とは言い難い。主な記録が、機関職員の手記を資料台帳に加筆する程度だったためである。個々の成果を博物館間で共有したり、国際連携を構築するまでには至っていない。しかし情報通信技術の発展に伴い、研究機関ばかりかSCからも国際連携に基づく成果共有(フォーラム化)が求められている。この状況に対し本申請課題では、熟覧時の配布資料にSC熟覧者が描き込むスケッチやメモ、熟覧時の身振りや声の抑揚も含めた、資料とSC熟覧者とが有機的に一体化する資料記録、ならびに古写真等アーカイブ資料にも連動させた高度情報化資料ドキュメンテーションを構築する。SCと博物館との「再会」は博物館をめぐる「社会運動」として注目されているため(Montenegro 2015)、これまででない資料ドキュメンテーション方法論をこの分野で世界を先導する研究者・機関と共に検証してモデル化することは、博物館人類学研究の一層の充実・進展に寄与する意義を持つ。

3. 研究の方法

SCによる博物館資料熟覧に関する技術面と方法論の双方において、本研究課題の代表者、所蔵機関の国際共同研究者、SCの熟覧者の三者が意見を持ち寄り、熟覧結果を含む高度情報化資料ドキュメンテーションを構築する。SCによる熟覧解説および機関[A]が所蔵するアーカイブ資料により、機関[B][C]、ならびに採択中科研費によって実施中の日本国内4機関の所蔵資料情報がリンクする。別予算を充当して民博が世界展開を視野に入れて新規に構築したデジタル

アーカイブ・ポータルに、集積したコンテンツをデータ移行することで、本申請課題の成果が多言語化され発信される。

本申請課題の、SC による博物館資料熟覧とデジタル記録化と再発信に注目した博物館人類学研究は、日本国内のみならず世界的に見ても最新の研究テーマである。この実践的研究分野の技術的側面において、国際共同研究者と申請者が中心となってフォーマットを考案・確定し、それに基づくデジタルドキュメンテーションを進展させる。ここでいう統一フォーマットとは、例えば資料写真撮影であれば、照度、撮影アングル、撮影枚数などであり、資料熟覧映像であれば撮影アングルを含めたカメラワーク、熟覧時間、多言語対応字幕などである。同様に研究方法におけるフォーマットであれば、例えば資料台帳の確認方法・項目設定、SC 招聘手続き、翻訳や専門用語の確定などから成る方法論が確定する。それらの確定と実施によって、資料情報に関する民族学博物館のフォーラム化が、日本発モデルとして世界的に展開していく。

4 . 研究成果

研究目的と方法に記した内容を実現し、本研究課題で得られた成果をさまざまな媒体を通して国内外に発信することができた。

機関[A]北アリゾナ博物館が収蔵する 446 点の資料熟覧の成果は、2020 年 3 月に共編著『北アリゾナ博物館収蔵 446 点の「ホビ製」銀細工および関連資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」4』(国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアム資料集 4)として刊行した。ページ数が 2200 頁を越える大著だったため、紙媒体だけでなく PDF 形式の DVD 出版も行った。また、Breunig 名誉館長、Hays-Gilpin 主任学芸員とともに共著論文を国際オンラインジャーナルに投稿して採択され、2020 年 3 月に刊行された。機関[B]国立アメリカンインディアン博物館の収蔵資料 150 点を対象とした資料熟覧は、2017 年 6 月に行った。現在、その記録の編纂中であり、準備が整い次第、上述の国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアム資料集(査読あり)での刊行を目指して投稿する。Chavez-Lamar 副館長を民博に招聘した際に収録した、資料熟覧の進め方の講義映像を、映像論文として国際オンラインジャーナルに投稿し、採択され、2020 年 3 月に刊行された。機関[C]デンバー自然科学博物館の 38 点の収蔵資料熟覧の記録は、Colwell 博士と共に編者として編み、査読付きの刊行物として投稿中である(国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアム資料集)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Atsunori Ito	4. 巻 1
2. 論文標題 “ Introduction ”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 TRAJECTORIA	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://doi.org/10.15021/00009508	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Atsunori Ito (ed.)	4. 巻 1
2. 論文標題 “ An Approach of the Info-Forum Museum: To Create a Source Community-driven Multivocal Museum Catalog. ”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 TRAJECTORIA	6. 最初と最後の頁 1-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://doi.org/10.15021/00009508	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Kelley Hays-Gilpin, Atsunori Ito, Robert Breunig	4. 巻 1
2. 論文標題 “ Decolonizing Museum Catalogs: Defining and Exploring the Problem. ”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 TRAJECTORIA	6. 最初と最後の頁 1-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://doi.org/10.15021/00009509	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 伊藤敦規	4. 巻 1
2. 論文標題 「共有されるアートをめぐる記憶」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『arts/（民族芸術学会誌リニューアル創刊号）』	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤敦規	4. 巻 4
2. 論文標題 「北アリゾナ博物館収蔵『ホピ製』銀細工および関連資料の熟覧調査の概要」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『北アリゾナ博物館収蔵446点の「ホピ製」銀細工および関連資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」4』（国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアム資料集）	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsunori Ito	4. 巻 4
2. 論文標題 “Brief Overview of the “Reconnecting Project” on the Silverworks and Related Items Labeled “Hopi” in the Museum of Northern Arizona.”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『北アリゾナ博物館収蔵446点の「ホピ製」銀細工および関連資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」4』（国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアム資料集）	6. 最初と最後の頁 21-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤敦規	4. 巻 3
2. 論文標題 「本著の概要と民博収蔵『ホピ製』資料の来歴」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国立民族学博物館収蔵186点の『ホピ製』資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」3』（国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアム資料集）	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsunori Ito	4. 巻 3
2. 論文標題 “Outline of this report and provenance of objects labeled “Hopi” in National Museum of Ethnology.”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国立民族学博物館収蔵186点の『ホピ製』資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」3』（国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアム資料集）	6. 最初と最後の頁 9-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅谷昭範・伊藤敦規	4. 巻 2
2. 論文標題 「天理大学附属天理参考館収蔵北米先住民資料の来歴」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『天理大学附属天理参考館収蔵24点の「ホピ製」資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」2』（国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアム資料集）	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akinori Umetani and Atsunori Ito	4. 巻 2
2. 論文標題 “ A Brief History of the Native North Americans Collections in the Tenri University Sankokan Museum ”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『天理大学附属天理参考館収蔵24点の「ホピ製」資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」2』（国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアム資料集）	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤敦規	4. 巻 2
2. 論文標題 「序」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『天理大学附属天理参考館収蔵24点の「ホピ製」資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」2』（国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアム資料集）	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsunori Ito	4. 巻 2
2. 論文標題 “ Preface ”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『天理大学附属天理参考館収蔵24点の「ホピ製」資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」2』（国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアム資料集）	6. 最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤敦規	4. 巻 3
2. 論文標題 「民族誌資料のデジタルアーカイブ化にかかる諸問題」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『デジタルアーカイブ学会誌』	6. 最初と最後の頁 91-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Atsunori Ito	4. 巻 46
2. 論文標題 “Reconnecting Source Communities with Museum Collections: A Minpaku Info-Forum Museum Project.”	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 MINPAKU Anthropology Newsletter	6. 最初と最後の頁 3-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤敦規	4. 巻 160
2. 論文標題 映像を用いた博物館資料情報の再収集	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 民博通信	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤敦規	4. 巻 422
2. 論文標題 ソースコミュニティと博物館資料との『再会』(国立民族学博物館の収蔵品28)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文部科学教育通信	6. 最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤敦規	4. 巻 41 (5)
2. 論文標題 アシウィ・アワン博物館・遺産センター	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 月刊みんぱく	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤敦規	4. 巻 42
2. 論文標題 「ホストとして関わる人類学 米国南西部先住民ホピと私のこれまでとこれから」(特集 人類学者の存在論)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 67-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Gerald Lomaventema and Atsunori Ito
2. 発表標題 Revitalization of Hopi Jewelry through the Museums Collections Review,
3. 学会等名 Hopi Artist Workshops on Living in Sacred Continuum exhibition, New Mexico State University Museum and NMSU Art Department, New Mexico, USA. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 「民族誌資料にかかるコンプライアンス ソースコミュニティへの配慮の重要性と協働の可能性を事例として」
3. 学会等名 『天理大学 研究倫理・コンプライアンス研修』(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 「民族学博物館におけるカルチャル・センシティブティへの配慮」
3. 学会等名 『第536回 ウィークエンド・サロン』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 「民族誌資料のデジタルアーカイブ化にかかる諸問題」
3. 学会等名 『第3回デジタルアーカイブ学会研究大会』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 「米国先住民ホピの暮らしと世界観」
3. 学会等名 『第125回国立民族学博物館友の会 東京講演会』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsunori Ito and Team Reconnecting Project
2. 発表標題 Reconnecting Source Communities with Museum Collections
3. 学会等名 3rd Annual Research Associate Dinner, Museum of Northern Arizona (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Gerald Lomaventema, Darrin Kuwanhongva, Cordell Sakeva, and Atsunori Ito
2. 発表標題 Fake and Imitation Hopi Jewelry
3. 学会等名 Hopi Arts Trail (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 「国立民族学博物館のフォーラム型情報ミュージアムプロジェクト ソースコミュニティと博物館資料との『再会』を促す試み」
3. 学会等名 第169回東北人類学談話会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsunori Ito
2. 発表標題 Minpaku Collections from Northeastern Woodlands of the United States: Reconnecting Source Community with Museums
3. 学会等名 KAKENHI Project meeting (15KK0069), National Museum of Ethnology, JAPAN
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Gerald Lomaventema and Atsunori Ito
2. 発表標題 Revitalizing Community: From Representation by Others to Self-presentation
3. 学会等名 KAKENHI Project meeting (15KK0069), Shungopavi Community Building, Arizona, USA
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 「ソースコミュニティと博物館資料との『再会』」
3. 学会等名 国立民族学博物館国際シンポジウム『ミュージアムの未来 人類学的パースペクティブ』、グランフロント大阪 北館4階ナレッジシアター（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 「民族学博物館の諸活動におけるソースコミュニティとの協働 コメントにかえて」
3. 学会等名 南山大学人類学研究所公開シンポジウム『博物館活動におけるソースコミュニティとの協働の可能性と課題』、南山大学Q棟Q103教室
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 「趣旨説明」
3. 学会等名 南山大学人類学研究所公開シンポジウム『博物館活動におけるソースコミュニティとの協働の可能性と課題』、南山大学Q棟Q103教室
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 「米国南西部先住民ホピと天理参考館所蔵資料との『再会』」
3. 学会等名 天理大学附属天理参考館第81回企画展「大自然への敬意 北米先住民の伝統文化」記念講演会、天理大学附属天理参考館研修室（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 北米と歴史的遺物返還
3. 学会等名 日本学術会議地域研究委員会「歴史的遺物返還に関する検討分科会」第24期第2回（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 博物館資料情報の再収集 EEM北米資料とソースコミュニティとの『再会』
3. 学会等名 第505回みんなくウィークエンド・サロン
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Gerald Lomaventema and Atsunori Ito
2. 発表標題 Revitalization of Hopi Jewelry through the Collections Review in the US and Japan
3. 学会等名 Friends Program: Gerald Lomaventema and Mentees, Wheelwright Museum of the American Indian
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 ソースコミュニティの人々との資料熟覧 博物館収蔵庫でのフィールドワーク
3. 学会等名 みんなく×ナレッジキャピタル フィールドワークを語る（ナレッジキャピタル連携講座第7期第4回）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ito Atsunori and Gerald Lomaventema
2. 発表標題 Reconnecting Hopi Silversmiths with NMAI Collections
3. 学会等名 KAKENHI Project meeting (15KK0069; 26704012), National Museum of the American Indian
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ito Atsunori and Arakawa Fumiyasu
2. 発表標題 Reconnecting Source Community with Museums
3. 学会等名 KAKENHI Project meeting (15KK0069; 26704012)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Atsunori Ito
2. 発表標題 Revitalizing Hopi Silversmithing Traditions
3. 学会等名 National Museum of Ethnology International Workshop Reconnecting Source Communities with Museums for Education: Revitalizing Hopi Silversmithing Traditions
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Atsunori Ito
2. 発表標題 Hopi Silversmithing and Mimbres: Fred Kabotie 's activities in the late 1940s
3. 学会等名 National Museum of Ethnology International Workshop Reconnecting Source Communities with Museums for Education: Revitalizing Hopi Silversmithing Traditions
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Atsunori Ito
2. 発表標題 Introduction: Reconnecting Source Communities with Museum Collections
3. 学会等名 National Museum of Ethnology International Workshop Reconnecting Source Communities with Museums for Education: Revitalizing Hopi Silversmithing Traditions
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Atsunori Ito
2. 発表標題 Reconnecting Hopi Artists with Mimbres Landscape and Pottery Designs
3. 学会等名 Reconnecting Archaeological Materials with Descendant & Source Communities: Collections Review, Field Trip, Art Work Creation, and Exhibition Planning
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Atsunori Ito
2. 発表標題 Introduction of the Reconnecting Projects
3. 学会等名 Reconnecting Archaeological Materials with Descendant & Source Communities: Collections Review, Field Trip, Art Work Creation, and Exhibition Planning
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Atsunori Ito
2. 発表標題 Reconnecting Source Community with Museum Collections and Anthropological Documentation
3. 学会等名 KAKENHI Project meeting (15KK0069; 26704012)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Atsunori Ito and Gerald Lomaventema
2. 発表標題 Revitalization of Hopi Jewelry: Through the Collections Review in the US and Japan
3. 学会等名 Museum of Northern Arizona 84th Hopi Festival
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Atsunori Ito
2. 発表標題 Hopi Collections Review in the US and Japan
3. 学会等名 KAKENHI Project meeting (15KK0069; 26704012)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 博物館資料をソースコミュニティと再会させる
3. 学会等名 第454回みんなばくウィークエンド・サロン
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Atsunori Ito
2. 発表標題 Hopi Collections Review in the US and Japan
3. 学会等名 Kakenhi Project
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Atsunori Ito
2. 発表標題 Reconnecting Source Community with Museum Collections: Hopi Collections Review in the US and Japan
3. 学会等名 Kakenhi Project (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 米国先住民墓地保護・返還法
3. 学会等名 『資料返還をめぐる先住民と博物館との新たな関係性の構築に関する文化人類学的研究(科学研究費補助金基盤B、出利葉浩司代表)』
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Atsunori Ito
2. 発表標題 Hopi Collections Review in the US and Japan: Introduction of a Minpaku's Info-Forum Museum Project
3. 学会等名 Kakenhi Project
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Atsunori Ito
2. 発表標題 Hopi Collections Review in the US and Japan: Introduction of a Minpaku's Info-Forum Museum Project
3. 学会等名 Kakenhi Project
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kelley Hays-Gilpin and Atsunori Ito
2. 発表標題 Decolonizing museum catalogs? Collaborative catalogs and archaeological practice
3. 学会等名 WAC8 (8th World Archaeology Congress, Kyoto, Japan: 世界考古学会議京都大会) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Gerald Lomaventema and Atsunori Ito
2. 発表標題 History of Traditional Overlay Jewelry
3. 学会等名 Arizona State Parks Homolovi State Park Event “Suvoyuki Day”
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Robert Breunig, Atsunori Ito, Gerald Lomaventema, Kelley Hays-Gilpin
2. 発表標題 History of Hopi Overlay Jewelry: Origins and Continuity
3. 学会等名 Museum of Northern Arizona 83rd Hopi Festival (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 伊藤敦規
2. 発表標題 博物館資料を文化的に蘇生させる ソースコミュニティと共に行う博物館資料の熟覧調査
3. 学会等名 リトルワールドカレッジマスターコース 2016 (招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 伊藤敦規、キャシー・ドーハーティ、ケレイ・ハイズ=ギルピン編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 国立民族学博物館	5. 総ページ数 2247
3. 書名 『北アリゾナ博物館収蔵446点の「ホビ製」銀細工および関連資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」4』（国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアム資料集4）』	
1. 著者名 伊藤敦規編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 国立民族学博物館	5. 総ページ数 853
3. 書名 『国立民族学博物館収蔵186点の「ホビ製」資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」3』（国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアム資料集3）』	
1. 著者名 伊藤敦規編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国立民族学博物館	5. 総ページ数 219
3. 書名 『天理大学附属天理参考館収蔵24点の「ホビ製」資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」2』	
1. 著者名 Atsunori Ito	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Self-publishing	5. 総ページ数 100
3. 書名 Mimbres Workshops 2017: Reconnecting Hopi Artists with Mimbres Landscape and Pottery Designs	

1. 著者名 伊藤敦規 編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 国立民族学博物館	5. 総ページ数 1375
3. 書名 『国立民族学博物館収蔵「ホビ製」木彫人形資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再会」 1』（国立民族学博物館調査報告SER）140	

1. 著者名 伊藤敦規 編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 国立民族学博物館	5. 総ページ数 132
3. 書名 『伝統知、記憶、情報、イメージの再収集と共有 民族誌資料を用いた協働カタログ制作の課題と展望』（国立民族学博物館調査報告）137	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<映像作品の公開> 以下全て2019年4月26日から12月15日まで、米国ニューメキシコ州立大学附属博物館での企画展『Living in Sacred Continuum』にて資料熟覧映像データベースとして公開。 “New Mexico State University Museum 80.17.476, Gerald Lomaventema,” 02:36. “New Mexico State University Museum 2006.11.05, Ed Kabotie,” 07:01. “Geronimo Springs Museum G412/13-70, Gwen Setalla,” 09:38. “Geronimo Springs Museum G476-4, Ramson Lomatewama,” 04:37. “Geronimo Springs Museum G476-9, Spencer Nutima,” 07:35. “Interpretation by the Artist, Ed Kabotie,” 00:42. “Interpretation by the Artist, Ed Kabotie,” 02:20. “Interpretation by the Artist, Gerald Lomaventema,” 01:11. “Interpretation by the Artist, Gwen Setalla,” 06:57. “Interpretation by the Artist, Gwen Setalla,” 02:38. “Interpretation by the Artist, Spencer Nutima,” 02:29. “The University Museum, New Mexico State University,” 00:46. “Impression on the Mimbres Workshop 2017, Ed Kabotie,” 07:57. “Impression on the Mimbres Workshop 2017, Gerald Lomaventema,” 02:41. “Impression on the Mimbres Workshop 2017, Gwen Setalla,” 03:51. “Impression on the Mimbres Workshop 2017, Ramson Lomatewama,” 06:26.	
--	--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ハイズ = ギルピン ケレイ (Hays-Gilpin Kelley)	北アリゾナ博物館・人類学部・学芸員	

6. 研究組織(つづき)

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ブルーニグ ロバート (Breunig Robert)	北アリゾナ博物館・全館・名誉館長	
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	コルウェル チップ (Colwell Chip)	デンバー自然科学博物館・人類学部・上級学芸員	2020年3月31日に退職
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	チャベス=ラマー シンシア (Chavez Lamar Cynthia)	国立アメリカンインディアン博物館・資料部門・副館長	